

平山郁夫シルクロード美術館 News

The Hirayama Ikuo

Silk Road Museum

News

No.28

2023年3月発行



平山郁夫《敦煌石窟九層樓》 2007年 80.3×116.7cm

1979(昭和54)年9月7日、北京の故宫博物院では、中華人民共和国建国三十周年を記念して「平山郁夫 日本画」展が開催されました。この展覧会は、平山にとって初めての中国での展覧会であり、その後の巡回先も広州での開催と決まっていた。先の広州展の開催までの間、画家は妻である美知子と共に、北京から西安、そして蘭州などを含む河西回廊を経て「敦煌」へ訪れました。

同行した妻の記録によると、9月19日、敦煌に到着。当時、この町は突然の豪雨の影響で半壊の状態でもあり、大変な災害の中にあったと述懐しています。そうした中、敦煌文物研究所の所長であった常書鴻氏は、平山夫妻を所内の一角に宿泊させるなど手厚くもてなしました。この時、画家は常氏と20年ぶりの再会を喜び、また彼の案内で念願だった莫高窟の見学や壁画模写なども行いました。そして、この久方ぶりの出会いにより、平山は心行くまで常氏と語り合い、彼の石窟保護活動に深く感銘、この時から「文化財保護」の思いが芽生えたと言います。初めての敦煌訪問では3日間滞在し、常夫妻と研究員たちとの交流をはじめ、多くの窟でスケッチを行った平山はその後何度も敦煌へ赴きました。1987(昭和62)年の6度目の訪問では、日本美術との繋がりを見つけ、それは画家にとって大きな発見でもありました。

「第220窟で思いがけない発見をした。ここは七世紀半ばごろの開基になるもので、内部は唐代絵画の水準の高さを示す壁画で飾られている。…なにげなく東門上部の小壁に目をやると、そこに三尊スタイルの菩薩像が描かれていたのである。…一千年以上の時を経てさすがに時代色はついていますが、鉄線描による線ははっきりとしている。…この色彩、線描などが法隆寺金堂の六号壁の描法と非常によく似ていることに気づいた。特に指の反り具合、あるいは指先の肉の盛り上がりの表現は、六号壁の観音像のものと瓜二つである。…まさに日本美術の源流に遭遇したのである。このときの興奮は、今でも忘れられない。」

平山郁夫「仏教伝来の跡をたどって」(『平山郁夫全集 第4巻 仏教伝来』講談社・1991年)より

※平山郁夫と常書鴻氏の初めての出会いは、1958(昭和33)年1月。日本橋高島屋で「中国敦煌芸術」展が開催された際、訪日した常氏がその前後で東京芸術大学に訪れました。その時の案内役が当時助手でもあった平山郁夫でありました。



平山郁夫シルクロード美術館

HIRAYAMA IKUO SILK ROAD MUSEUM

展覧会紹介 The Hirayama Ikuo Silk Road Museum Exhibition

特別企画展 中国巡回展帰国記念「崑崙の西から」 2023年3月25日(土)～9月5日(火) ※会期中無休



《舍利容器と奉納物》 1-3世紀 ガンダーラ クシャン朝
片岩、金、銀、水晶など

中国西域から中央アジアにかけて連なる崑崙山脈、いにしえの中国では神々の住まう山とされ、その向こうにはインドやペルシアなど西方の異世界が広がっていました。今日、シルクロードと呼ばれる幾筋もの交易路を通じて、こうした異国の文化や思想が東西に伝えられ、さまざまな交流が生まれました。

本展は、当館が所蔵するシルクロードコレクションからガンダーラの仏像や中央アジア、西域の陶器やガラス器、装身具など選りすぐりの名品を展示する展覧会です。この展覧会は、2018年8月から敦煌研究院で開催された「平山郁夫のシルクロードの世界展」の帰国を記念する企画です。同展は敦煌の後、2023年2月まで約4年半の間に北京、西安、洛陽、遼寧、深圳、成都、合肥などあわせて13の中国主要都市を巡回し、その観客動員数は150万を超えました。会場では中国巡回展の様子をご紹介します。中国において大ロングランとなったシルクロード名品展をぜひお楽しみください。



《弥勒菩薩交脚坐像》 2-3世紀 ガンダーラ クシャン朝
片岩

Information

- ◆会 期 2023年3月25日(土)～9月5日(火) ※会期中無休
- ◆開館時間 午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- ◆観 覧 料 一般1200円／高・大学生800円／小・中学生無料
※障がい者手帳をお持ちの方無料、介護の方1名まで600円
※70歳以上の方、20名様以上の団体 各100円割引
- ◆主 催 公益財団法人平山郁夫シルクロード美術館
- ◆特別後援 中華人民共和国駐日本大使館文化部、中国文物交流中心、
日中友好会館、中国文化センター、中国駐東京観光代表処、
日本中国文化交流協会、日中平和発展促進会
- ◆協 力 黄山美術社
- ◆後 援 山梨県、山梨県教育委員会、北杜市、北杜市教育委員会、
朝日新聞甲府総局、山梨日日新聞社・山梨放送、
読売新聞甲府支局、信濃毎日新聞社、八ヶ岳ジャーナル、
テレビ山梨、エフエム富士、エフエム八ヶ岳

他会場で見られる平山郁夫シルクロード美術館コレクション

- ◆平山郁夫美術館(広島県尾道市)
「平山郁夫のまなざし-敦煌と桃源郷-」展
2023年3月18日(土)～5月28日(日) 内容:絵画約10点
- ◆平山郁夫美術館
「平山郁夫 聖地を巡る旅」展(仮称)
2023年5月29日(月)～9月15日(金) 内容:絵画約10点
- ◆平山郁夫美術館
「シルクロードのキャラバン」展(仮称)
2023年11月27日(月)～2024年3月13日(水) 内容:絵画約10点
- ◆古代オリエント博物館(東京都)
「古代西アジアのいきもの」展(仮称)
2023年7月15日(土)～9月10日(日) 内容:コレクション約10点
- ◆山梨県立美術館
「テルマエ展 お風呂でつながる古代ローマと日本」展(巡回)
2023年9月9日(土)～11月5日(日) 内容:コレクション25点
- ◆大分県立美術館
「テルマエ展 お風呂でつながる古代ローマと日本」展(巡回)
2023年11月25日(土)～2024年1月21日(日)
内容:コレクション25点
- ◆さくら市ミュージアム-荒井寛方記念館-(栃木県)
「平山郁夫-悠久のシルクロード 仏教の来た道-」展(仮称)
2024年1月13日(土)～3月17日(日)
内容:絵画 約50点、コレクション約70点

※新型コロナウイルス感染拡大により、当館並びに上記開催館については、展示等が中止となる可能性があります。ご来館前にHPをご確認いただくか、お電話にてお問い合わせください。

私たちのシルクロード

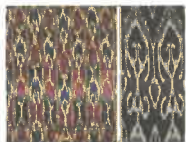
中国の『^{さんきょう}蚕経』という古書には、紀元前3千年頃、黄帝とその妃・西陵氏が養蚕と絹織の技術を教え広めたと書いてあります。その当時のものがどんなものだったか分かりませんが、漢代(紀元前後)から近代に至る中国の絹織物技術は素晴らしく、古いものは世界あちこちの遺跡から出土していて、その水準の高さで人々を驚嘆させているのです。西方の国々はその素晴らしさに魅了され、万難を排し絹を求めて中国へやって来ました。中国にとってかけがえのない財源だったため、絹が蚕という虫からつくられることや、織物技術についても絶対に外部に漏らさぬようにしたはずです。

西方の人々が絹を求めて来た道がいわゆるシルクロードです。この道はシルクだけでなく、陶磁器、ガラス、鉄、紙などの文化が往来し、仏教、イスラム、マニ教などもこの道を通って入ってきました。そのシルクロードは現代の和田、且末、若羌といった西域南道より120キロのタクラマカン砂漠に入り込んでいたといえます。

和田より東北にある^{ニヤ}尼雅遺跡のあたりに、当時の西域南道があったようです。尼雅遺跡へ行く途中にある^{うてん祭}ダナンウイリク廃寺から出た板絵には、中国の王女が于闐王に嫁いた時、



1978年 和田織物工場の様子



1978年 和田で購入した絹

禁断の蘭の卵を髪の中に隠し、于闐で蚕を育て絹織の技術を伝えた話が描かれています。唐僧・玄奘三蔵もこのことを伝えていて、王女を祭った寺院があったといえます。こうして

絹織の技術は于闐から西方へ伝わっていったのです。1978(昭和53)年8月に和田へ行った時には、絹を買うのが私たち団の一つの目的でありました。今ウイグルの女性たちが着ている「エドレス」という木目模様の絹は、中央アジア一帯の国々でも着られています。白黒や派手な赤黄緑などもあって、私も何枚も求めました。でも技術的には、昔の錦織物に比べると粗末なので、少々がっかりしました。伝統の特殊な技術は、おそらく文化大革命の時にはほとんどなくなってしまったのでしょう。私たち一行は高級品を買いました。62.5cm×122cmの小さなものが4万円ぐらいしました。

私達は、初めからシルクロードを目指したわけではありません。焼失した法隆寺の釈迦三尊仏の第3号壁の観音菩薩を平山一人で仕上げるように前田青邨先生から申され、平山は喜びと共に驚きましたが、前田先生と達人方が揃った所では描き続けられないと思い、丁度出来たばかりの安普請の座敷

平山郁夫シルクロード美術館名誉館長
平山 美知子

で一人描き続けなくてはと決心しました。それから誰一人近づけないで、妻である私も食事以外近づかないようにしていました。無事その仕事が終わったのは、1968(昭和43)年7月1日。このような立派な三尊壁画の源流は何処へゆけば見れるのか?そう思うのは当然だと皆思いました。それに平山が芸大にいると教鞭をとられるのは、美術や考古学の先生ですので、アフガニスタンなどを旅行したという方はおられませんでした。

柳宗玄先生が我が家に來られた時、「月曜会という学習院を卒業された婦人達が立派な先生方をお招きして、月曜日にお話しを伺う会があるので、その会に入るといろいろと教えてくれますよ」と言って下さり、入るようにしました。月曜会の織田幹雄さん(アムステルダムオリンピックの三段跳の金メダリストで、日本人初のオリンピック金メダリスト)の奥様は、何でも積極的に仕事をなさる方と伺い、何もさっさと出来ない私は織田様を紹介していただきました。織田夫人は、早速、東京大学の深井晋司先生を紹介して下さいました。その後、深井先生は京都大学の樋口隆康先生に電話をして下さり、私は一人で初めて新幹線に乗って京都大学へ向かったのです。樋口先生は、深井先生の知人なので仕方なく会って下さり、こんな普通のおばさんがアフガニスタンへ行くたびびっくりされたと思いますが、御親切にいろいろと教えて下さいました。その後、アフガニスタンを含む中央アジアの旅行準備に追われるようになり、母や妹は子供二人を置いていと、ただあきれていたと思います。

1968年7月24日、広島から父から電報が届きました。

「ハレノガドデタイワイ ゲンキデケン
キューセイカチアゲ オカエリタイノル。」

※^{うてん}于闐:^{ホータン}古代和田地域に栄えたオアシス都市のこと。



1978年 平山郁夫
且末郊外の古道でのスケッチ

◆本稿は、毎日新聞社『シルクロード夫婦行』(2000年)をもとに、加筆・訂正しました。



1968年 平山美知子 アフガニスタン・バミヤンにて

中国における当館所蔵品展について(4)

平山郁夫シルクロード美術館 館長
平山 東子

中国巡回レポートも今回で4回目となります。昨年(2022年)夏は、中国巡回展第3弾として、シルクロードの金属をテーマにした展覧会が敦煌研究院でスタートしました。当館としても、金属器だけで展覧会をすること自体が初めての試みで、はたしてそのような展覧会が当館のコレクションで成立するものなのかと半信半疑だったのですが、中国にはペルシアやトルコ、中央アジアなどの古代の金属器のコレクションが非常に少ないという



敦煌での金属展のポスター

ことで無理矢理、展覧会のテーマが決まりました。主な出品作品は、紀元前2500年頃の古代メソポタミアの王銘入りの銅碗に始まり、アケメネス朝、ササン朝の銀器類や、ホルススタンやウラルトゥの青銅の武具や馬具、バクトリアのコホル壺やギリシア様式による金工品、ガンダーラ地方の金の装身具類、そして当館所蔵品の目玉の一つであるシルクロード諸王朝で発行されたコインなど、合計約250点となりました。

昨年のガラス展の準備と同様に、6月には集荷が始まり、点検、梱包、通関手続きを経て、全ての金属器が木箱に詰められて出国していきましました。ただ、中国での点検や展示作業および、開幕式には日本側からも参加しないといけないということで、黄山美術社の彭さんに付き添われ、私も作品と一緒に敦煌へ行くことになりました。今回は、西安での1週間の隔離と、敦煌での3日間の保護観察期間がありましたが、昨年の3週間の隔離に比べればずっと短縮されたので、比較的軽い気持ちで出国しましたが、西安での隔離が終了し、敦煌での観察期間もやっと終わるといふ8月13日あたりから、急に敦煌市内でも感染者がではじめることが判明しました。そのため展示作業中にも、突然、全員PCR検査を命じられたり、結果が出るまで待機させられるという不穏な日々が続きました。それでも、敦煌研究院の先生方や、北京大学の林梅村先生のチームの方々、カメラマン、黄山美術社、北京鑑鐘文化社と北京迅捷会社の皆さんも、連日、淡々と行政の指示に従い、早朝から夜中まで黙々と作業をつづけ、なんとか8月18日には無事、開幕の日を迎えることができました。

とはいえ、まだその時期、中国国内では感染者が出た都市

への移動が厳しく規制されていたので、開幕式に招待していた日本大使館の方も、甘粛省の関係



展示会場

者の方々も誰も敦煌に入らず、結局、敦煌研究院の方々と我々だけで、ごく内輪の開幕式となり、侘しい反面、なんとものほのぼのとした展覧会スタートとなりました。折しも昨年は、日中国交正常化50周年の節目の年にあたり、コロナ禍で多くの行事が中止や延期となったこの時期に、敦煌との共同展覧会が3回も実施され、それぞれの展覧会がその後、多くの中国都市を巡回しているということで、日中関係者の方からも珍しい事例だと驚かれています。それもこれも本展に携わって下さる関係者の皆様の並々ならぬご尽力と信頼関係の賜物にほかなりません。そして、この春には中国巡回展の第1弾として、2018年8月から中国13会場を巡回した「平山郁夫のシルクロードの世界展」がついに日本に戻ってくることになりました。2月末には最後の巡回先の安徽省博物院を出て、上海経由で3月上旬までに船が東京港に着くということで、当館では3月25日から帰国記念展を予定しております。皆様のご高覧を心よりお待ちしております。(詳しくは2ページをご参照ください)



現場作業チームと記念撮影しました



本展監修の羅副院長がご自宅で手料理を振る舞って下さいました

◆文化庁による文化芸術振興費補助金(文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業)を活用し、様々な事業に取り組みながら館の磨き上げを続けています

1. 解説のQR化

このたび当館では、館内全域にWi-Fiを整備し、解説のQR化(多言語:日本語・英語・中国語/簡体字)を実施しました。館内各所に設置しており、お持ちのスマートフォンにて閲覧できますので、ぜひご利用ください。

【Free Wi-Fi】

ネットワーク名(SSID): guest

パスワード(password): 88888888

※全ての作品の解説はありません。

エリアごとの説明となります。

※展示替えごとに解説パネルも入れ替えます。



2. レンタサイクル事業(山梨県主体事業)

このたび、電動レンタサイクル「COGICOGI北杜/」(有料)の運用が開始となりました。スマートフォンを用いて支払いから施錠までを行えます。当館だけでなく、小淵沢駅前観光案内所、中村キース・ヘリング美術館の3箇所まで借りることができます。また、3段階の電動補助で、坂道も快適に移動ができます。八ヶ岳を満喫するツールとしてぜひご利用ください。なお当館は美術館の入口(屋外)に設置しており、入館しなくてもご利用頂けますが、冬季は運用を中止いたします。



3. オリジナルビール及びワインの制作

当館が所蔵する平山絵画を用いて、地元山梨の地ビール及びワイナリーと協働し、中国インバウンド向けの商品としてオリジナルのビール及びワインを制作しました。

●オリジナルビール(八ヶ岳ビール タッチダウン)

【制作】八ヶ岳ブルワリー(萌木の村株式会社)

【絵柄】①シルクロードを行くキャラバン(西・月)

②シルクロードを行くキャラバン(東・太陽)

③黎明富士山



●オリジナルワイン

【制作】株式会社ルミエール

【絵柄】①シルクロードセレクション2015(赤)/

パルミラ遺跡を行く(朝)

②シルクロードセレクション2019(白)/

パルミラ遺跡を行く(夜)

③シルクロードセレクション

甲州シュールリー2021/

トルファン葡萄



4. キャッシュレス化(paypay導入)

美術館の入館料、ショップ、カフェに「paypay(キャッシュレス決済)」を導入しました。これにより、金銭授受の時間短縮だけでなく、窓口対応での接触の機会を減らすことができます。今後は外国人対応を目的としたサービス導入を進め、受付作業の簡略化に繋げて参ります。



◆第13回 シルクロード研究会の報告

前日には珍しく雪が降るものの、春の暖かい日となった2月11日（土・祝）、鎌倉市二階堂に位置する平山郁夫の画室・庫庵では、第13回シルクロード研究会を開催しました。今回のテーマは、昨年の9月から今年の1月下旬まで開催された「古代エジプト文明」展（於：長崎県・ハウステンボス美術館）を振り返り、専門家



田澤先生 講演の様子（コレクションを見せながら）

をお迎えして講演を行いました。講師は、エジプト学がご専門の田澤恵子先生（古代オリエント博物館研究部長）

で、「古代エジプトの知と技の伝統」というテーマで、当館のコレクションを読み解いていただきました。約1時間半のお話では、当時のエジプト人の世界観や死生観をはじめ、コレクションに描かれる文様や彩色に関することなども語っていただき、改めて古代



田澤先生 講演の様子（全体風景）

エジプトの世界を学ぶ良い機会となりました。講演後は、先生からコレクション数点に関する解説もあり、耳を傾けた参加者は、普段疑問に感じていることを質問するなどして交流を深めました。イベント終了後、大変充実した会だったこともあり、一部の参加者の方からは「美術館の展示でも見てみたい!」というお声も頂きました。当館学芸室でもこの研究会で学んだこと機に、エジプトコレクションの展示ができるように励んでいきたいと思ひます。

なお、今回のシルクロード研究会についても、コロナ禍での開催ということもあり、新型コロナウイルス感染症対策、特に人数制限をはじめ、マスクの着用・検温・アクリル板の設置など講じた上で開催しました。



田澤先生によるコレクションの解説



コレクションを鑑賞する参加者

◆画室の活用状況について(2)

令和4年度の平山郁夫画室は、コロナの影響が色濃い中、合間を縫っては見学の申し込みに対応してきました。その都度、見学内容も徐々に改良を重ね、少しでも画伯への理解を深めていただき満足していただけるよう職員一同努力してきました。

その結果、参加された方からの口コミでの見学への問い合わせ、申し込みなどもあり、画室見学への希望者も増えてきています。加えて個人グループのみならず、団体旅行、法人の研修先など申し込み者の幅も広がってきています。それぞれの見学グループに応じた対応も可能ですので、もし見学のご希望がございましたら右記までお問い合わせいただけますと幸いです。

昨年は薬師寺・玄奘三蔵院の起工式のために描かれた須弥山の大下図を壁面に設置し、見学の方々にご覧いただくことができました。壁画制作の奉納という20年に渡る画業を引き受け

た約束当初の平山画伯の手形と、高田好胤管主の手形が画面右下に二つ並んで押されているさまは、訪れる方々にとっても印象深いものとなったようです。多くの方々がその前に佇み写真を撮られていました。画室では時々入れ替えのあるこうした大下図と取材旅行の度に増えていったスケッチブックの両方を鑑賞していただくことが可能です。皆様のお越しをお待ちしております。

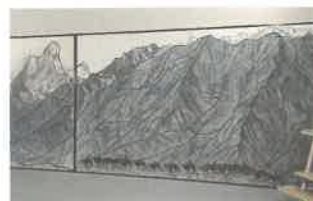
こあん
平山郁夫画室「庫庵」
(鎌倉市二階堂)

見学 申し込み先

TEL : 0467-25-0251

mail: kiyasu.silkroad.museum@gmail.com

担当: 鎌倉事務局 喜安香奈子



○ワークショップ



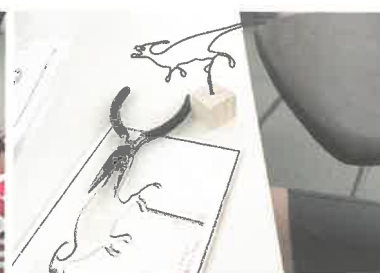
恐竜ジオラマ作り体験

●開催日:7月23日(土)、24日(日)
●講師:宮沢叔恵 ●参加者:51名



恐竜ワイヤーアート作り体験

●開催日:8月2日(火)、3日(水) ●講師:松田広昭 ●参加者:46名



復元画ワークショップ

●開催日:8月20日(土)、21日(日)
●講師:小田隆 ●参加者:19名



恐竜全身復元模型

●開催日:8月27日(土)
●講師:徳川広和 ●参加者:10名



ティラノサウルス頭部復元模型制作

●開催日:8月28日(日)
●講師:徳川広和 ●参加者:19名

○第13回 絵手紙コンテスト受賞者発表

第13回目となる昨年度は4つのテーマで作品を募集しました。新型コロナウイルスの影響により、館内での絵手紙スペースを撤去し、それぞれのおうちで制作した作品を募集したところ、319名の方からご応募頂きました。ありがとうございます。平山美知子名誉館長のコメントと共に楽しみください。

<2021年のテーマ>

- ① ふるさとを描く
- ② オリンピックを描こう
- ③ 仏像
- ④ 美術館内での発見

●最優秀賞(総部門)

岡田 美咲(小学生)



仏像とてもよく描けました。コロナも逃げていこう。

●優秀賞(幼児部門)

小口 凛



りんさん「りん」という字がよく書けました。

●優秀賞(小学生部門)

浅川 葉南



病気の平山がどんなになぐさめられたかだと思います。



安達 未来

シルクロードを歩いた日々が戻ってくるようです。

●優秀賞(中高生部門)

中間 菜々子



こんな美しい路をこわさないでほしいですね。



櫻井 奏真

美術館で見るひとつひとつすべてが私に新しい世界を造ってくれます。



萩原 優和

絵描きはこの画材でどんな傑作を描いていくでしょう

●優秀賞

(大人部門)



納 正彦

ふるさとのことを思う時、いくつになっても忘れられません。



津田 恭子

心の迷いはいくつになってもありますが、仏像に一喝されたとき、迷いが消えていったように思います。



丸山 一代

人間は心の迷いをいくつも持っているのに仏像は優しくそれを見守ってくれます。



ナガツチヨ

選手が金メダルをとるような記録を出すときは、けしてやさしい顔ではありませんが、心はやさしいのでしょうか。

○スクールプログラム

4月 15日 北杜立甲陵中学校 1年生 44名

(展覧会見学・絵手紙コンテスト)

5月 12日 北杜市立小淵沢中学校 1年生 46名(展覧会見学)

5月 13日 北杜市立高根中学校 1年生 66名(展覧会見学)

5月 24日 北杜市立長坂小学校 3年生 53名(展覧会見学)

5月 26日 笛吹市立石和中学校 2年生 18名(展覧会見学)

7月 14日 飯田市立三穂小学校(展覧会見学)

7月 16日 御殿場市立御殿場中学校 絵画部 44名(展覧会見学)

9月 29日 山梨県立甲府支援学校 中学部 3年生 3名(展覧会見学)※雨天時

10月 18日 北杜市立明野中学校 1年生 23名(展覧会見学)

2023年上期 開館カレンダー

4 April							5 May							6 June						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
						1		1	2	3	4	5	6					1	2	3
2	3	4	5	6	7	8	7	8	9	10	11	12	13	4	5	6	7	8	9	10
9	10	11	12	13	14	15	14	15	16	17	18	19	20	11	12	13	14	15	16	17
16	17	18	19	20	21	22	21	22	23	24	25	26	27	18	19	20	21	22	23	24
23/30	24	25	26	27	28	29	28	29	30	31				25	26	27	28	29	30	
7 July							8 August							9 September						
SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
						1			1	2	3	4	5						1	2
2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9
9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16
16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23
23/30	24/31	25	26	27	28	29	27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30

3/25～9/5 特別企画展 中国巡回展帰国記念「崑崙の西から」展
 6/10～18 コーナー展示「杜の作家たちのコラボ作品」展
 7/8～8/31 コーナー展示「サメ(仮)」展
 9/9～12/27「平山郁夫 遺跡を描く-中近東から地中海へ-」展
 9月下旬～10月上旬 コーナー展示「神山奈緒子(仮)」展

※9/6～8展示替えの為休館
 ※上記以外、4～9月は開館(無休)
 ※展示替え期間及び冬季は休館

賛助会 だより

賛助会会員募集

賛助会は美術館の活動を支援するとともに、会員の皆様の交流をはかることを目的として発足いたしました。皆様から寄せられました会費は、展覧会の開催、講演会・講座の開催、国際交流、美術館の維持管理などに使用されます。賛助会員にはさまざまな特典(詳しくは美術館HPをご覧ください)のほか、交歓会等イベントも予定しております。皆様のご入会を心よりお待ちしております。

◆会 費 個人会員…… 10,000 円
 家族会員…… 15,000 円
 法人会員…… 100,000 円

◆受付期間 随時受け付け(毎年7月に更新。12～3月までにご入会の方は初年度の年会費は半額、4～6月ご入会の方は翌年6月末日まで有効)。

◆申込方法 申込用紙に必要事項をご記入のうえ美術館にご郵送いただき、所定の銀行口座に会費をお振り込みください。申込用紙ご希望の方は、美術館HPからダウンロードするか、美術館にご請求ください。

お知らせ

次回の展覧会案内

平山郁夫 遺跡を描く
 -中近東から地中海へ-
 2023年9月9日(土)～12月27日(水) ※会期中無休



《コロントの遺跡》1976年



平山郁夫シルクロード美術館
 HIRAYAMA IKURO SILK ROAD MUSEUM

無料Wi-Fiサービスを
ご利用いただけます



平山郁夫シルクロード美術館ニュース 第28号 2023年3月発行

発行 公益財団法人平山郁夫シルクロード美術館

〒408-0031 山梨県北杜市長坂町小荒間2000-6

Tel 0551-32-0225

URL <http://www.silkroad-museum.jp>

